

第4回 高校生世代

平成28年度『人権の詩』<sup>うた</sup>

入選

平成二十八年年度(第四回) 高校生世代「人権の詩」<sup>うた</sup>  
【入選作品】 江津高等学校三年 白須 妃南子 さん

## もし自分に

もし自分に勇気があったら、あの時、

「お手伝いします。」の一言である人の苦しみは半分だったのに。

もし自分に暖かい手があったら、あの時、

「大丈夫ですか。」の一言である人の恥ずかしさは半分だったのに。

どうして自分には、人の苦しみを分かる心がないのだろう。勇気をふさぎこむ心はあるのに。

どうして自分には、人の恥ずかしさを分かる心がないのだろう。誰にも差しのべることのない冷たい手はあるのに。

それでもいつか、心の中にある勇気を開放して、一言、声を出すことができたなら。

それでもいつか、冷たかった手を差しのべてぬくもることができたなら。

そんな素敵な人に、いつかなりたい。